

コーヒー豆とSARS

北村 豊

このタイトルを読んで2つの名詞に関連する共通の動物のハクビシンを直ぐに想起した読者は、コーヒー通か、はたまた「スカトロジー」に造詣が深い人でしょうか…。

SARS、すなわち重症急性呼吸器症候群の最初の発生地は、食で有名な中国の広州の野生動物販売市場で2003年の事であった。その後、人獣共通感染症として恐れられた本疾患も2004年には終息宣言が出されて、短命な疾患となった。この疾患の原因微生物は、新種のコロナウイルスと判明しているが、感染者と動物のそれぞれが保有するウイルス間には1パーセント以下の遺伝子の相違があるようで、変異の実態は不明である。

このウイルスの宿主となったことにより一躍悪者にされた飼育ハクビシンは「中間宿主」であり、感染の被害者ともいえるが、オリジンの天然宿主は中国のキクガシラコウモリと判明している。このように悪名を馳せたハクビシンであるが、本種を含むジャコウネコ科（シベットキヤット）の動物が「世界一高い」とも言われるコーヒー豆を生み出す「中間」ならず、「主役」であることは、事実である。

コーヒーの実は完熟すると真紅の実（コーヒーチェリー）となる品種が主流であり、果肉は少量ながら甘い。私事、マレーシア国立先住民病院での三年間の勤務中の巡回診療地で、この実を食した事があり、ハクビシンを含むジャコウネコ科の動物が完熟の実しか食さない「気持ち」が理解できる。この動物の糞中には、白っぽいコーヒーの生豆？が入っている、この未消化体の豆が焙煎して使用され、インドネシア語でコピ・ルワツ（K）と呼ばれる。LUWAKとは、マレージャコウネコのことである。

天然ものは、産出量が少なく希少価値が高く、世界一高級で高価なコーヒーとも呼ばれ、ジャコウネコ類の消化管を通過することで独特の芳香を持つとされる。実は、私の冷蔵庫の中には、インドネシアで購入したこの「高価なコーヒー豆」が保存してあるが、未だ飲んでおらず、職員のパースデーにでも味わってみようかと思っ

1995年にはイグノーベル賞を受賞したこのコーヒーは、読者も飲用することで苦しいときの「糞力」となる可能性はほとんどない。しかし、このコーヒーをきっかけに先ずは「好奇心と少しの勇気」を持ち続ける事ができたなら、人生が豊かに歩めるのではないだろうか？

（小布施町 信州口腔外科インプラントセンター 所長）